

## 平成30年度 江別市男女共同参画セミナー

## ○開催日・講師

平成30年10月20日（土）

- ① 講演会 13:30～15:00  
 ② ワークショップ 15:15～16:15

江別市民会館37号

・にじいろほっかいどう理事

桑木 昭嗣 氏

・にじいろほっかいどう事務局長

国見 亮佑 氏

・NPO 法人北海道レインボー・リソースセンター

L-Port 代表

工藤 久美子 氏



セミナーの様子

## ○内容等

## 第1部 講演会

テーマ：「多様な性生きる～LGBTってなに??～」

参加者：69名

内容：講師のにじいろほっかいどう事務局長の国見亮佑氏が、自身の当事者としての活動の紹介、LGBTに関する語句の説明、現在の社会状況などを説明し、その中で「性的マイノリティの人たちは、生きづらさを感じている。それを解消するには、自分で決められることが大事である」「LGBT認知に向けた取り組みとして、どのような性生きるかを自分で決められるようにする（自己決定権の保障）、家庭や地域、職場で当事者が過ごしやすくなるようにすることが必要である」などのお話がありました。その後、にじいろほっかいどう理事の桑木昭嗣氏と NPO 法人北海道レインボー・リソースセンターL-Port 代表の工藤久美子氏の3人で、いつ頃当事者と認識したのか、周囲に打ち明けた時の反応など、それぞれの経験をトーク形式で話し、参加者それぞれが性の多様性について考えるきっかけとなるような講演会となりました。

&lt;国見氏&gt;

中学生の頃に自分が同性愛者だと自覚し、大学卒業後に札幌へ移住して、ゲイ当事者として活動を開始。家族には、23歳の時にゲイだということをカミングアウト。10年前から公立学校の教員をしている。当事者の居場所づくりを目的に「にじいろほっかいどう」を設立し、札幌や函館を拠点に活動しているほか、北

海道教育大学釧路校特別支援教育教室と共催で性の多様さを持つ子ども達へのサポートを学ぶ夏期講習会を開催するなどの活動も行っている。

<桑木氏>

中学生の時にゲイだと自覚。小学生の頃は、しぐさや口調が柔らかいことで「おかま」と言われ、小さいいじめがあった。中学生の頃は、いじめられないように彼女をつくって偽ったが、葛藤もあった。高校生の頃、仲の良い友人に自分がゲイであるということのカミングアウト。卒業後は、美容師などを経てゲイバーで働き、独立した。この頃、母親にカミングアウトしたが、「お前を生まなきゃ良かった」などと言われた。しかし、LGBTに関するポジティブなことを伝え続けるなどして、ようやく母親に理解してもらえるようになった。現在は、自分と同じような当事者を後押しする活動をしている。

<工藤氏>

中学生の時にレズビアンと自覚。高校卒業後は、地元で自分がレズビアンだと知られるのを恐れ、地元を出た。大学時代に、セクシュアルマイノリティのための電話相談があることを知り、相談。大学卒業後、電話相談した方々と知り合いになり、ありのままの自分を認めてもらうことで、背中を押してくれるような気持ちになった。大好きな人たちに嘘をつき続けながら生きていることがつらいと思ったため、大学時代の友達にカミングアウトした。現在は札幌市の相談事業を行っており、11月からは自身が設立したL-Portで相談事業を始める予定である。

## 第2部 ワークショップ

テーマ：「参加者のみなさんとの意見交流」

参加者：24名

内容：講師を交えて参加者が3つのグループに分かれ、講演会を聞いての感想や疑問に思ったことなどを話し合う意見交換の場となりました。